



涸沼ラムサール条約登録記念シンポジウム



有識者による
パネルディスカッション



講演をする柳生博さん

SAVE JAPAN プロジェクト 涸沼の生きもの観察会



網掛ボランティア看板づくり



皆でつくるう 皆で守るう 美しい涸沼



ラムサール条約湿地に登録された涸沼。貴重な動植物を育むその環境を守ろうと、様々な活動が行われています。この夏実施された活動の一部をご紹介します。

■7/11(土) 涸沼ラムサール条約登録記念 シンポジウム

涸沼のラムサール条約湿地登録を記念したシンポジウム(茨城県・一般財団法人自治総合センター主催)が大洗文化センター(大洗町)で開催され、関係市町村の住民など、約800人が参加しました。シンポジウムでは、テレビ等でもおなじみの俳優で、日本野鳥の会会長でもある柳生博さんが講演台に立ち、涸沼の環境を次世代に受け継ぐことの大切さを訴えました。

■7/12(日) SAVE JAPAN プロジェクト 涸沼の生きもの観察会

涸沼の生態系を多くの人に知ってもらおうと、生きもの観察会が涸沼自然公園を中心に行われました。親子連れを中心とした70名の参加者は、様々な水辺の生き物を採取し、涸沼の豊かさを体験しました。主催者の一人、NPO環くWA(小幡)の平澤さんは、「このような活動を通して、涸沼の環境を守り伝える意識が高まっていくことを願っています。」とコメントを寄せてくれました。

「SAVE JAPAN プロジェクト」は、損害保険会社とNPOが協働で実

施している生物多様性を保全する活動です。

■7/19(日) ひぬま流域クリーン作戦

涸沼の水質浄化活動に取り組んでいるクリーンアップひぬまネットワークでは、「大好きいばらき県民会議」との共催で、涸沼自然公園を中心に「ひぬま流域クリーン作戦」を実施しました。

当日は地元企業・団体・中学生・高校生・地域住民など726名の方にご参加いただき、燃えるごみ30袋(60リットル)、燃えないごみ6袋(30リットル)のほか、環境に悪影響を及ぼすおそれがある外来植物、コンクリート片等を回収しました。

■7/25(土) 網掛ボランティア看板づくり

網掛地区の皆さんで組織する網掛ボランティアの会では、地域の子どもたちと一緒に涸沼の環境を守ろうと、網掛公園に設置する看板を作成しました。

看板作りに参加した子どもたちは、「ごみを捨てないで」「ひぬまをきれいに」と手作りの看板にメッセージを描きました。網掛ボランティアの会の井川会長は、「子どもたちが作った看板をみて、涸沼を大切にしてくれれば。」とゴミの無い涸沼の実現に期待を寄せました。